

特集

ロボット支援手術 One Step Up

企画にあたって

近年、手術分野においてロボティクス技術の進展は目覚ましく、泌尿器科をはじめとする多くの診療科で、手術支援ロボットが日常診療に深く根づくようになりました。当初は da Vinci システム一強とも言える状況でしたが、近年では国産機器を含む多様な選択肢が登場し、術者の選択の幅も広がりを見せています。

このように活況を呈するロボット支援手術を、本誌では2号にわたって取り上げることといたしました。

本特集号では「step one」として、急速に拡大するロボット手術機器の現状と将来展望を、多角的な視点から紹介いたします。実際に使用している術者による各機器の特徴や操作性、臨床成績に加え、教育体制、実臨床に即した内容を網羅しています。また、泌尿器科保険適応の標準的手術術式にもエキスパートの先生に言及いただいています。本特集号1つでロボット支援手術の機器の比較から標準術式のマスターまで網羅した企画となっています。

私たちは今、ロボット手術が「選ばれし施設の特別な治療」から「標準治療の一選択肢」へと変貌を遂げつつある転換期にいます。機器の多様化は、技術革新の証であると同時に、適切な選定と教育、導入後の機器および手術における質の担保を私たちに問いかけています。

本号が、読者の皆様にとってロボット手術の“今”を見渡し、“これから”を考える一助となれば幸いです。

日本医科大学医学部
泌尿器科学講座

近藤 幸尋